

根木内歴史公園:湿地の観察会報告(2011/8/9 実施)

2011/8/19 文責：相澤

参加者：相澤、市川、高橋、三井、山田（洋）、出井（千葉大）

今回は大量のセミとその抜け殻、来援していた少年達が釣った大量のザリガニが出迎えてくれました。ジャヤナギには何十匹もの抜け殻があり、一歩歩くごとにセミが“ジジジジッ!!”と飛び出して行きました。8月の暑い中でしたが、たくさんの植物や動物に会うことができました。



◇観察した動植物



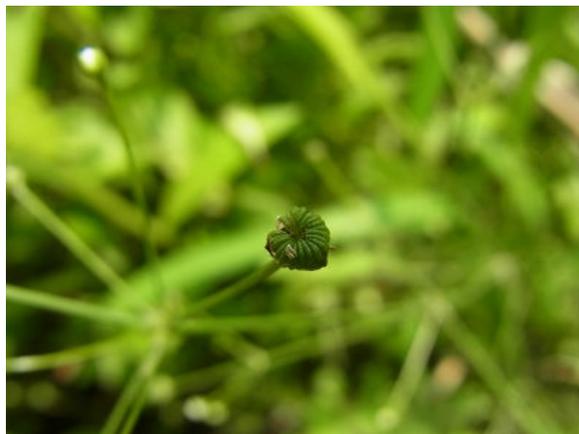
コヒルガオ

開園のころは、ヨシやオギにからまって咲くコヒルガオのピンクの花をこの時期あちこちで見ることが出来ました。緑の中に薄いピンクの花、かわいいのですが。夏の終わりに見たコヒルガオの種、種をつけることが珍しいと後になって知りました。写真に残しておけばよかったですね。(高橋)

ヘラオモダカ

花のピンクのつぼみとタネの放射状の茎（三井）

一昨年は斜面沿いのミゾソバに混じって一株二株咲くのみで、去年はパーゴラ前湿地で十株以上咲き、今年は斜面沿いのミゾソバよりもヨシよりで多く生えていました。毎年咲く場所が違う花ですね。多年草なはずなのに…（相澤）



エノコログサ(左)とアキノエノコログサ(右)

普段街中でもよく見かけますが、それが一種だけではないということも驚きでした。ぱっと見ただけではわからないような、小さな違いでしたが、これからは、身近な植物もよく観察してみようと思いなおすきっかけになりました。(出井)

エノコログサの方が粒が細かく穂が直立している感じで、アキノエノコログサは粒が大きく穂が垂れています。詳しく見分けるには、種子の皮の被り具合を見ます。(相澤)



イ

イグサ類が良く成長していた (山田)

イグサは畳の原料で、正式な和名は“イ”の一文字です。江戸時代前は関東地方はみな湿地だったのでしょうけど、湿地の植物には日本の文化を感じさせるものが多い気がします。ヨシズもそうだし、春の七草も湿地やあぜに生育するものが多いです。(相澤)

ヤブミョウガ

ツヤのある白い花のかたまり (三井)

つぼみの時はよくみかけたけれど、花がひらいているのはとても美しい (山田)

キショウブ池の向かいの斜面沿いに生育するヤブミョウガ。白い花のかたまりをよくよく見てみると、見事な花が集まっています。(相澤)



ナガコガネグモ

クモのお食事を初めて観察しました。想像とは違いましたが、自然界の一部を目の当たりにして感動も覚えました。

今まで苦手だったクモでしたが、もっとよく観察したいと思えるようになりました。(出井)



コフキコガネ

触覚がブラシ状のところ (三井)

三井さんの言われるように、触覚がとても特徴的で珍しく感じますが、街中でもたまたま見かけます。こういう生き物をじっくり見られるのも、観察会の良いところです。(相澤)

トキンソウ

地面にへばり付いてる小さな雑草です。かがんで、よくよく見ると小さな楔形の葉の間に丸い花の集まりが見えます。図鑑で調べると、漢字表記は、「吐金草」。エッ、金を吐くの？成熟した頭花を指で押すと黄色の果実が、出て来る事によるとか。試しにつぶしてみると、成熟しなかったのか、茶色の1ミリにも満たないような小さな粒が出てきたただけでした。昔の人は、良くもまあ、こんなちっぽけな植物に目をやって大げさな名前を付けたものだととても面白く感じました。(市川)

すみません、写真は撮っておりません。パーゴラ前広場にありますので、興味のあるかたは探してみてください☆

根木内歴史公園の湿地の観察会は毎月第2火曜日に行っています(雨天時は次の日に延期)。9月は13日(火)の予定で、アカバナ、イヌコウジュ、コナギ、シロバナサクラタデ、ゲンノショウコ、ヌマガヤツリ、ヒメサルダヒコ、ボントクタデなどを観察する予定です。

9:30に公園駐車場に集合で、昼まで観察を行い公園内で昼食を食べます。残暑が厳しいと思われるので、飲み物・帽子などお忘れなく。

お問い合わせ (千葉大・相澤)

E-mail : akihitoaizawa@gmail.com